

洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2007が開幕

彫刻と話す、その日を求めてー。



大勢の観客を集めた初日

手のひらの宇宙をテーマにした洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2007（洞爺湖町・同実施委員会主催）が9月22日、洞爺総合センターで開幕された。

開催当日は、テーブルカットが行われると待ちかねた大勢の愛好家らが展覧会場を訪れ、豊かな造形美を堪能していました。ビエンナーレは旧洞爺村時代の1993年に始まり、8回目を迎えました。

世界各国の作家を対象にした隔年開催の国際公募展で今回は



受賞作家の皆さん

46カ国から450点の作品が寄せられました。

会場には一次審査を通過した58点を展示。抽象的作風や技巧を凝らした現代感覚にあふれたハイレベルな彫刻群が、来場者の感性を刺激しており、来月21日まで開催されています。

ぜひ、足を運んでいただき、それぞれの作品が放つイメージの広がりを感じてみてください。



大賞 ウィー・セボグさん

洞爺村国際彫刻ビエンナーレ展覧会オープニングのために、受賞作家の皆さんが来町されました。翌日の23日には3名の受賞作家の方々をお招きし、「受賞作家を囲む会」が催されました。大賞作家のウィー・セボグ氏より「この美しい町で開催されるビエンナーレで大賞をいただき、大変光栄に思います。規定のサイズ内で作品を作ることは難しいが、その工夫の中で新しい視点が得られることもあります」と話されていました。



審査委員との鑑賞・講演会

また、28日の「審査員との鑑賞・講演会」では審査員を務められた笹野尚明先生をお招きし、彫刻作品の楽しみ方について「作品の印象は人それぞれ異なります。作者の意図に囚われず、自分の中に残る印象を大切にしてほしい」とのお話やビエンナーレ事業の始まりに関するエピソードなどのお話もしていただきました。